

3/16 福

自分も助ける側に

北海道

「ご飯が無料でもらえてうれしかった」「バイトのシフトが減ってお金がない」―日本民主青年同盟北海道委員会が14日、北海道小樽市で学生食料支援を開き、100人を超える学生や青年が続々と足を運びました。会場には地元農家や飲食店から提供された新鮮な野菜や果物、米、食料品や日用品が

所狭しと並び、学生たちは手をたたき、笑顔で談笑を交わしながら袋いっぱい食料を詰め込んでいました。食料品を入れた袋を広げ「こんなにたくさんもらえて助かりました」と話す市在住の学生(22)は「大学の寮でヒラが貼ってあるのを見て来ました。週4日入っていた塾講師のバイトが全部なくなりました。周りの学生も大変な思いをしています。」

道委員会は実態アンケートを実施。対話した同盟員は「とにかくお金が足りなくて困っていると言っている声が多かった。学生は本当に大変な状況に置かれています」と話しました。山本朱利副委員長は「小樽で初めての開催でしたが、始まる前から多くの学生が並んでいて、苦しいままだということがわかりました。困っている声を国

学生困窮 食料支援

や自治体に届け、食料支援をしながらも社会にしていきたい」と意気込みました。

京都

コロナ禍の学生や若者を支援する食料配布・相談活動が14日、京都市伏見区の京都農民会館で行われ、近くの龍谷大学の学生ら124人が訪れました。主催は地域の団体などでつくる「伏見青年・学生支援食料プロジェクト」



多くの学生らが並んだ食料プロジェクト14日、京都市伏見区

「ト」で、日本民主青年同盟が後援しました。食料支援は3回目。今回は来場者の分散を

目的に予約制も導入し、QRコードから受け付けをしました。持参したマイバッグいっぱい、米や野菜、缶詰などを詰め込んだ学生らが、「バイトのシフトが減らされて生活は苦しい。助かります」と口々に語りました。龍谷大学の3回生は「シフトが週1回になった。トイレトペーパーの費を落としたり、日々、切り詰めている。実家も自営業で仕事が減った。困っている学生にも特別定額給付金を再度、支給し

てほしい」と述べました。会場には生理用品も用意し「彼女の分をほしい」と受け取る男子学生もいました。ボランティアに加わった龍谷大学1回生は「バイト先の居酒屋が休業し収入がなくなりました。ここで助けていただいたので、今度は自分も助けになりたい」と話していました。

鹿児島

鹿児島県の日本民主青年同盟などでつくる実行委員会「わけもんかごしまミーティング」は13日、新型コロナウイルスの影響でアルバイトが減るなど、困窮する学生へ食料支援を行う「食料もってけ市」を鹿児島市内で開きました。

1月に続いて4回目の開催。学生や留学生、生活困窮者など122人が利用、32人のボランティアスタッフが参加しました。寄せられた募金で購入した品物や、県内各地から寄せられた米や野菜などの食料品に加え、生理用品や衣類などの日用品が会場いっぱい並べられました。

訪れた学生は「コロナ禍でも授業料は平年と変わらない」「アルバイト収入が減って生活が苦しい」「たかさんの食料や日用品を頂いてとても助かった」「学校の体育館などで開催してほしい」などの声が寄せられました。